



# 2027年卒 理系学生の就職活動（専攻分野別）

---

2026年4月

株式会社キャリアタス / キャリタスリサーチ

# 調査概要

2027年卒・理系学生の3月までの活動状況や志向に関する調査データの中から、主なものを抜粋し、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土木・建築系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析した。

## <目次>

- 1. インターンシップ等\*に関する情報を探した時期 P 3
- 2. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと P 4
- 3. インターンシップ等参加状況①（参加類型） P 5
- 4. インターンシップ等参加状況②（参加時期、社数） P 6
- 5. インターンシップ等参加状況③（プログラム内容） P 7
- 6. 志望業界（11月時点） P 8
- 7. 第1志望業界になったきっかけ P 9
- 8. 就職活動に関する情報の入手先 P10
- 9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点 P11
- 10. 「面白そう」と感じる仕事 P12
- 11. 推薦の利用予定 P13
- 12. 工場見学・研究所見学等の状況 P14
- 13. 3月時点の就職活動量 P15
- 14. 3月時点の就職活動状況 P16

\*インターンシップに限定せず、オープン・カンパニー等も含めて調査

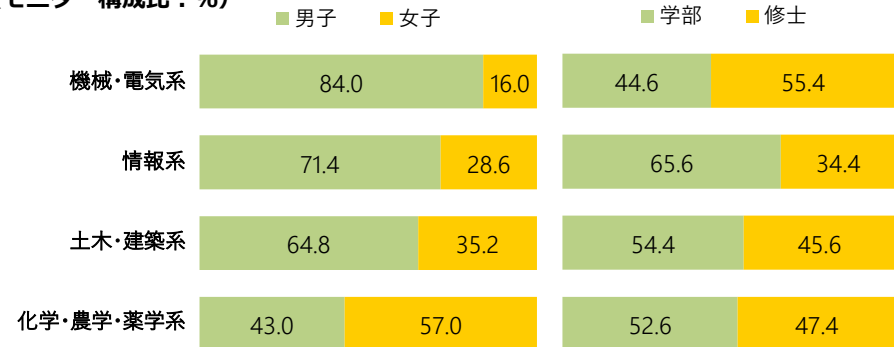
## <調査概要>

調査対象 : 2027年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生  
 サンプルング : キャリタス就活 学生モニター2027  
 調査方法 : インターネット調査法

	第3回定期調査	第4回定期調査	第6回定期調査	インターンシップ等 特別調査
調査時期	2025年11月	2026年1月	2026年3月	2026年3月
回答者数	1,010人	1,098人	1,033人	740人
理系全体	326人	347人	342人	263人
機械・電気系	66人	68人	66人	57人
情報系	96人	93人	85人	63人
土木・建築系	49人	49人	50人	40人
化学・農学・薬学系	83人	100人	102人	77人

※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

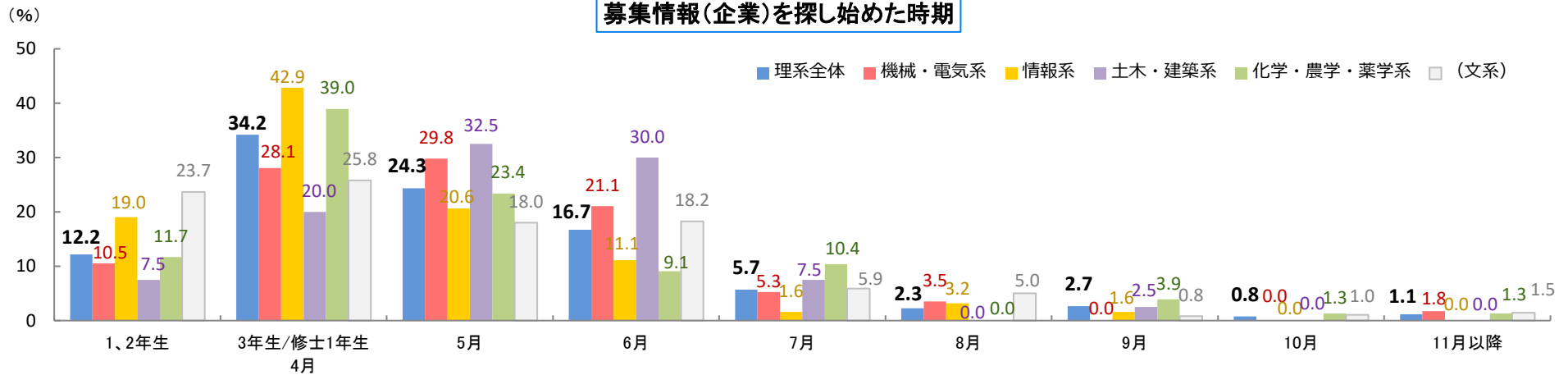
## (モニター構成比：%)



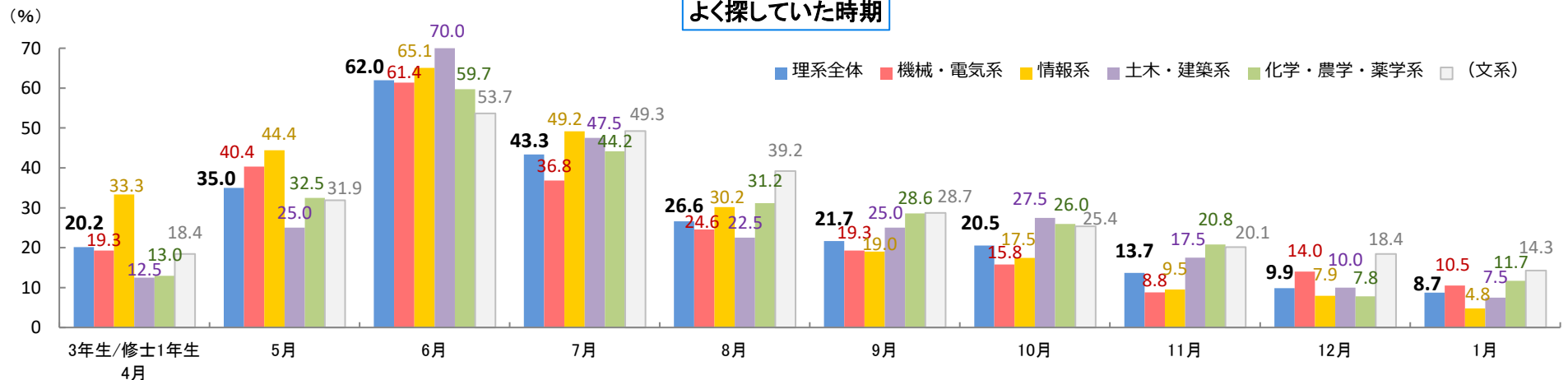
# 1. インターンシップ等に関する情報を探した時期

- 探し始めた時期は、理系全体では3年生/修士1年生の4月が最多。情報系は他の専攻より早く、6割強が4月までに開始したと回答（計61.9%）。
- よく探していた時期は6月が最も多く、次いで7月、5月の順。夏季プログラムの情報収集が盛んだった様子が表れている。
- 化学・農学・薬学系や土木・建築系は9月以降も比較的高く推移しており、秋や冬のプログラムを探す学生も少なくなかったことが見て取れる。

募集情報(企業)を探し始めた時期

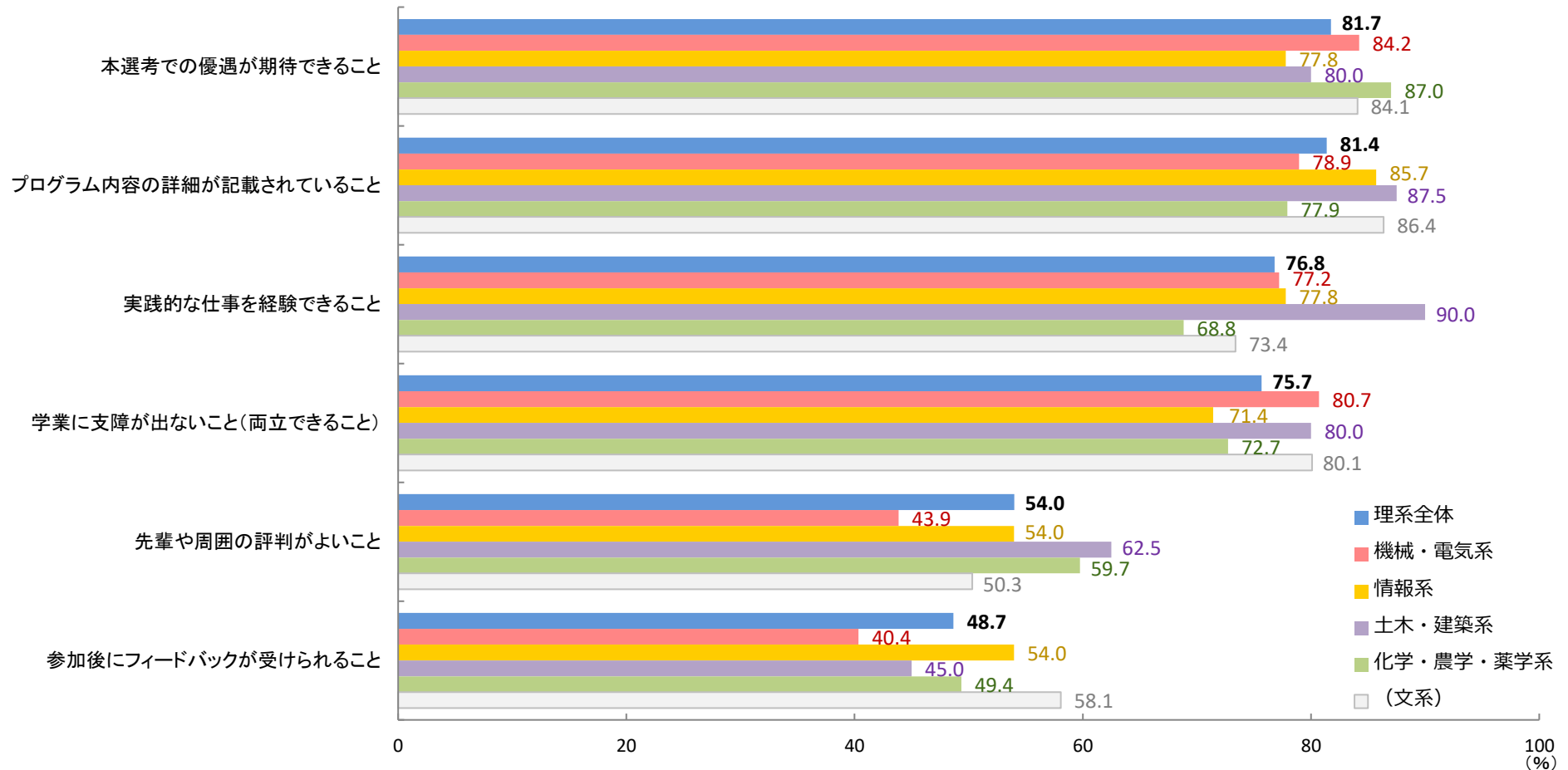


よく探していた時期



## 2. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと

- 理系全体では「本選考での優遇が期待できること」(81.7%)、「プログラムの詳細が記載されていること」(81.4%)がほぼ同率で多い。
- 「本選考での優遇」は、化学・農学・薬学系と機械・電気系で特に高い(87.0%、84.2%)。
- 「実践的な仕事を体験できること」は土木・建築系で高く(90.0%)、「参加後にフィードバックが受けられること」は情報系が比較的高い。

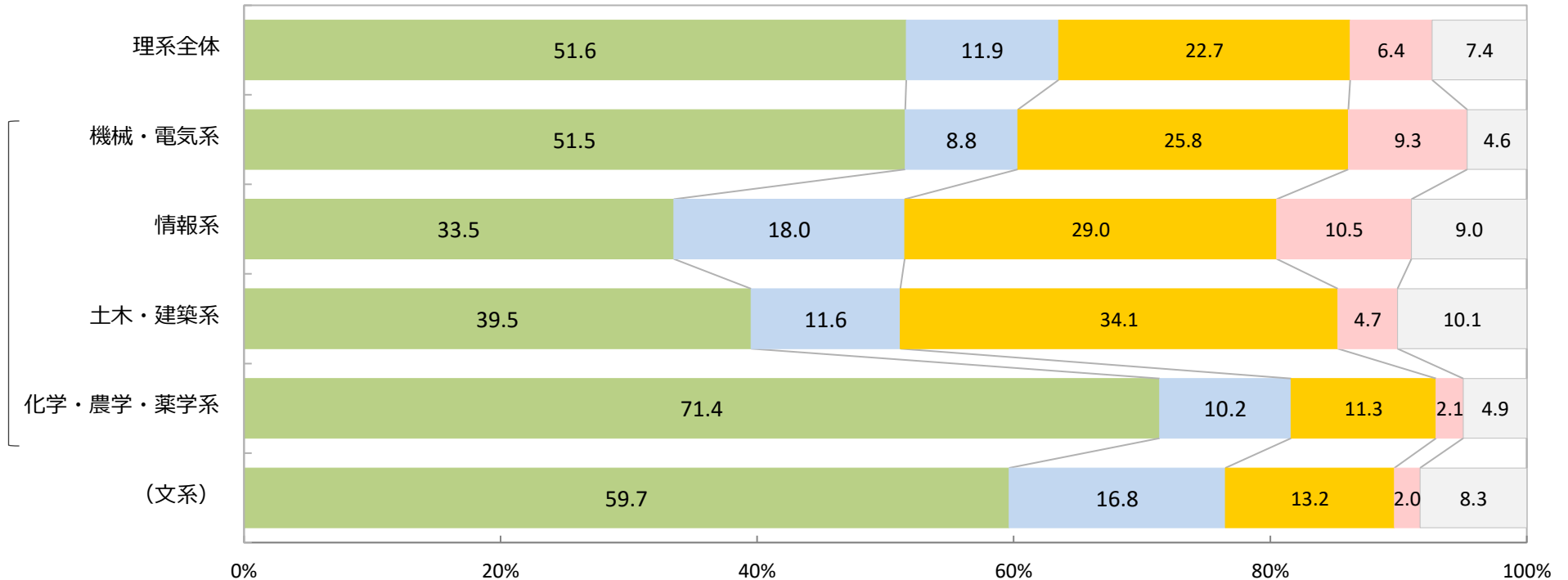


### 3. インターンシップ等参加状況①(参加類型)

- 「タイプ1：オープン・カンパニー」への参加が過半数を占めるが（51.6%）、文系に比べ「タイプ3：インターンシップ」の割合が高い（計29.1%）。
- 情報系、土木・建築系において特に高く、「タイプ3：インターンシップ」の割合は4割近くに上る（計39.5%、計38.8%）。
- 化学・農学・薬学系は「タイプ1：オープン・カンパニー」が7割を占める。

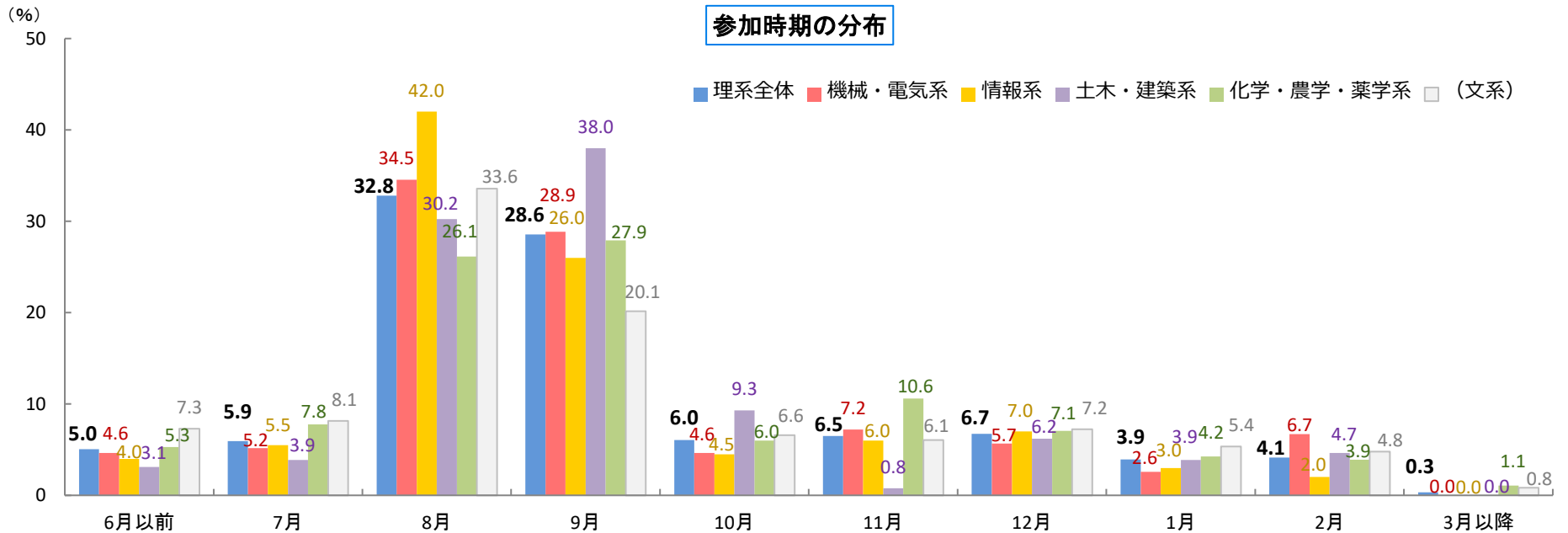
参加プログラムの類型(分布)

- タイプ1：オープン・カンパニー
- タイプ2：キャリア教育
- タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ（5日間以上）
- タイプ3-②：専門活用型インターンシップ（2週間以上）
- どのタイプに分類されるかわからない、その他



## 4. インターンシップ等参加状況②(参加時期、社数)

- いずれの属性も8月・9月の夏季休暇中に集中。特に情報系と土木・建築系で夏の参加割合が高い。化学・農学・薬学系は秋以降も比較的多い。
- 参加社数は文理差が大きく、文系の平均12.9社に対し理系は8.8社。理系の方が4社以上少ない。
- 理系の中では土木・建築系が多く（10.5社）、機械・電気系が少ない（7.9社）。



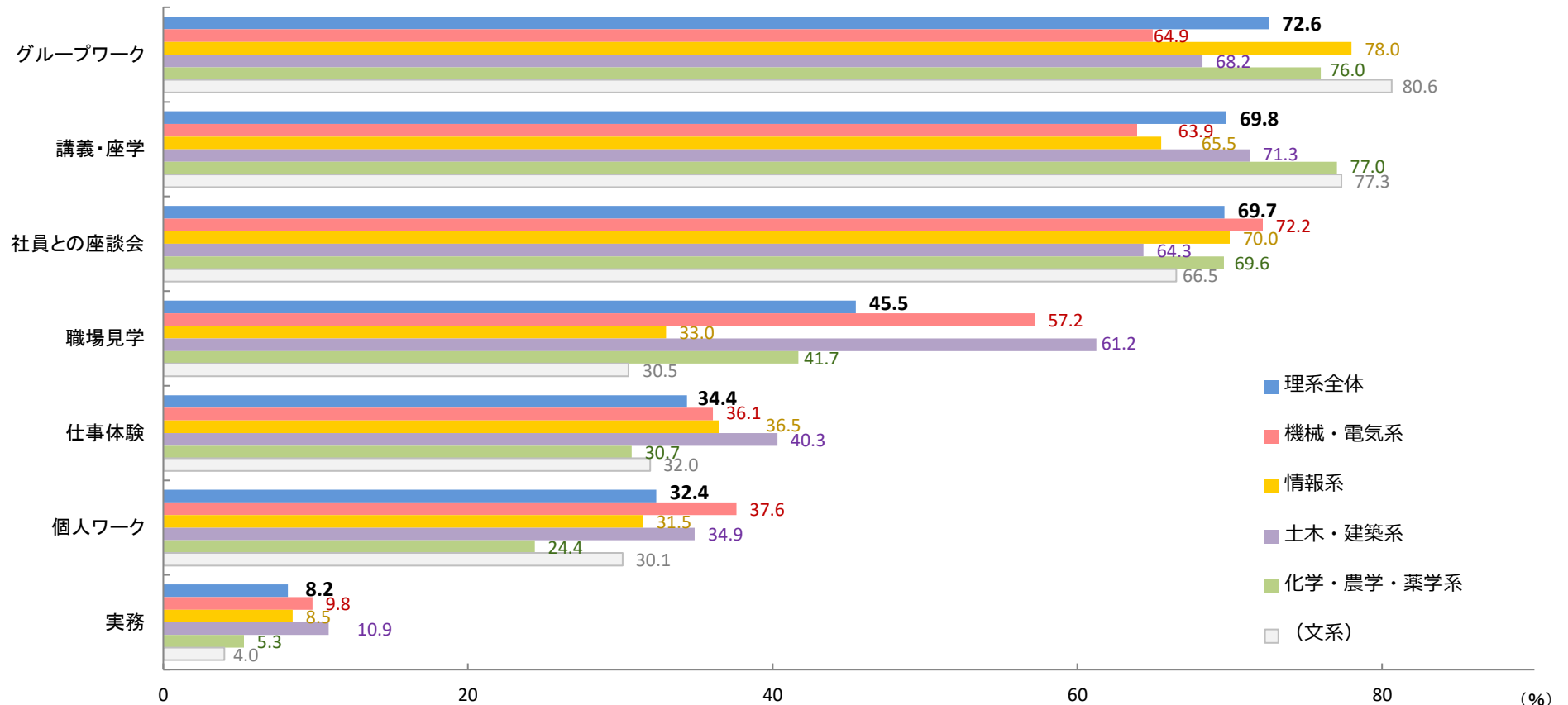
### インターンシップ等の応募社数・参加社数

	理系全体	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系	(文系)
インターンシップ等応募社数／平均	17.8社	15.8社	17.8社	16.5社	21.2社	22.8社
インターンシップ等参加社数／平均	8.8社	7.9社	8.7社	10.5社	9.0社	12.9社

## 5. インターンシップ等参加状況③(プログラム内容)

- 情報系学生は「グループワーク」の割合が理系の中で最も高く（78.0%）、「職場見学」は低い（33.0%）。
- 土木・建築系と機械・電気系は逆に「職場見学」の割合が比較的高い（61.2%、57.2%）。両者とも対面プログラムへの参加が他の専攻より多い。
- 「社員との座談会」は属性による差異が少なく、文理や専攻分野によらず多くが体験している。

プログラム内容



## 6. 志望業界(11月時点)

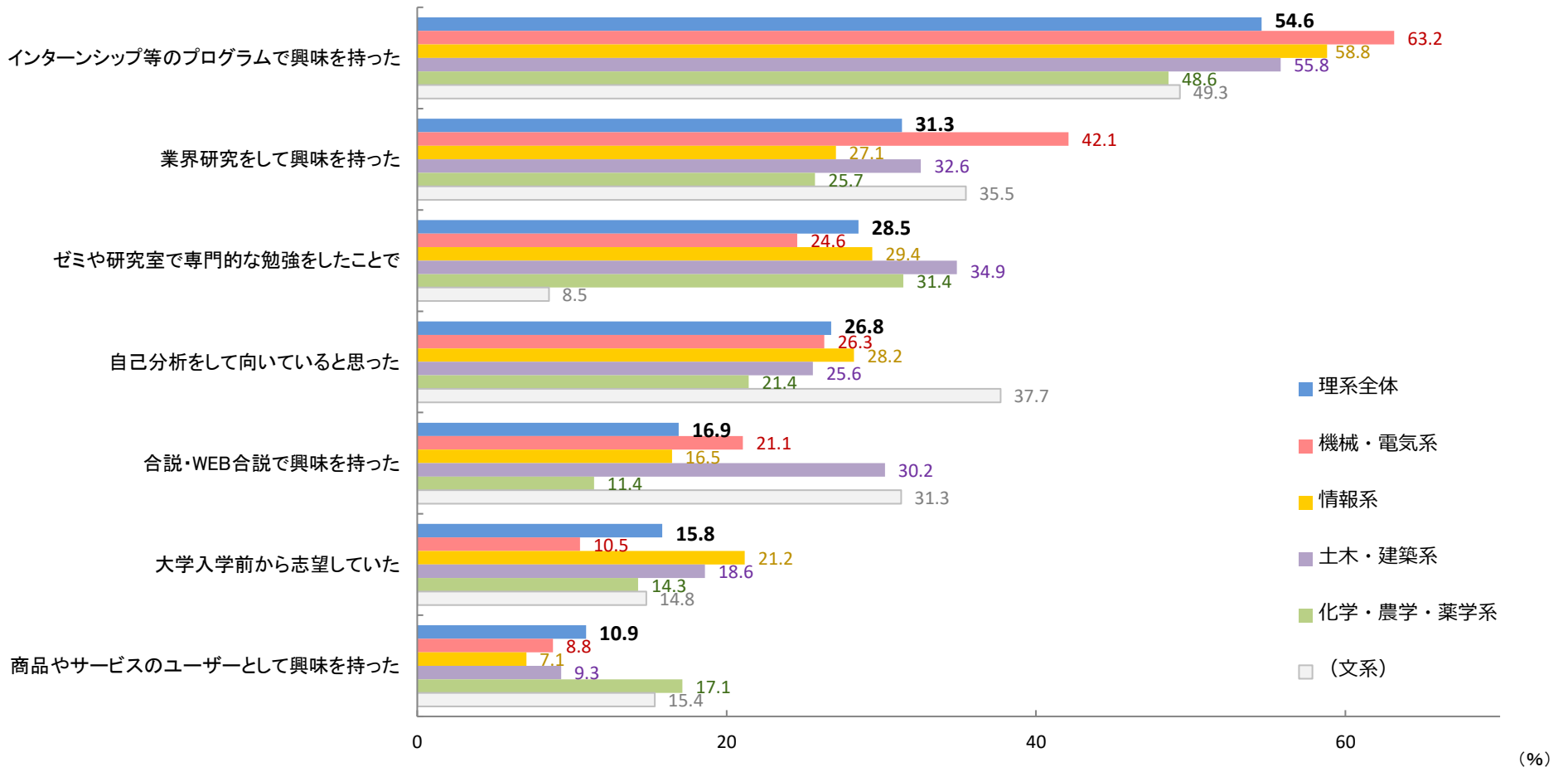
- いずれも専攻分野との関連性が強く表れている。情報系学生はIT業界に、土木・建築系は「建設・住宅・不動産」にポイントが集中。
- 機械・電気系学生の志望業界は、「電子・電機」が1位（52.6%）。次いで「機械・プラントエンジニアリング」（38.6%）。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「素材・化学」（54.3%）、2位「医薬品・化粧品」（42.9%）、3位「水産・食品」（38.6%）の順。

※5つまで選択 (%)

	理系全体		機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系		（文系）	
	志望業界	割合	志望業界	割合	志望業界	割合	志望業界	割合	志望業界	割合	志望業界	割合
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	28.5	電子・電機	52.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	70.6	建設・住宅・不動産	74.4	素材・化学	54.3	銀行	21.4
2	情報・インターネットサービス	27.8	機械・プラントエンジニアリング	38.6	情報・インターネットサービス	64.7	エネルギー	20.9	医薬品・医療関連・化粧品	42.9	マスコミ	18.9
3	電子・電機	21.8	自動車・輸送用機器	31.6	通信関連	25.9	調査・コンサルタント	11.6	水産・食品	38.6	情報・インターネットサービス	15.8
4	素材・化学	17.6	精密機器・医療用機器	26.3	電子・電機	20.0	運輸・倉庫	9.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	14.3	官公庁・団体	15.4
5	建設・住宅・不動産	14.8	情報・インターネットサービス	17.5	調査・コンサルタント	14.1	銀行	9.3	電子・電機	12.9	エンターテインメント	12.7
6	機械・プラントエンジニアリング	12.0	鉄鋼・非鉄・金属製品	15.8	エンターテインメント	10.6	農業・林業・鉱業	7.0	農業・林業・鉱業	10.0	運輸・倉庫	11.7
7	医薬品・医療関連・化粧品	11.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.8	銀行	9.4	機械・プラントエンジニアリング	8.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.0	水産・食品	11.3
	自動車・輸送用機器		素材・化学		自動車・輸送用機器	8.2	情報・インターネットサービス	8.6	情報・インターネットサービス	8.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.2
9	水産・食品	10.9	エネルギー	14.0	マスコミ	7.1	通信関連	4.7	官公庁・団体	8.6	建設・住宅・不動産	10.9
10	通信関連	10.6	調査・コンサルタント	8.8	その他サービス	5.9	官公庁・団体				調査・コンサルタント	
							商社（総合）					

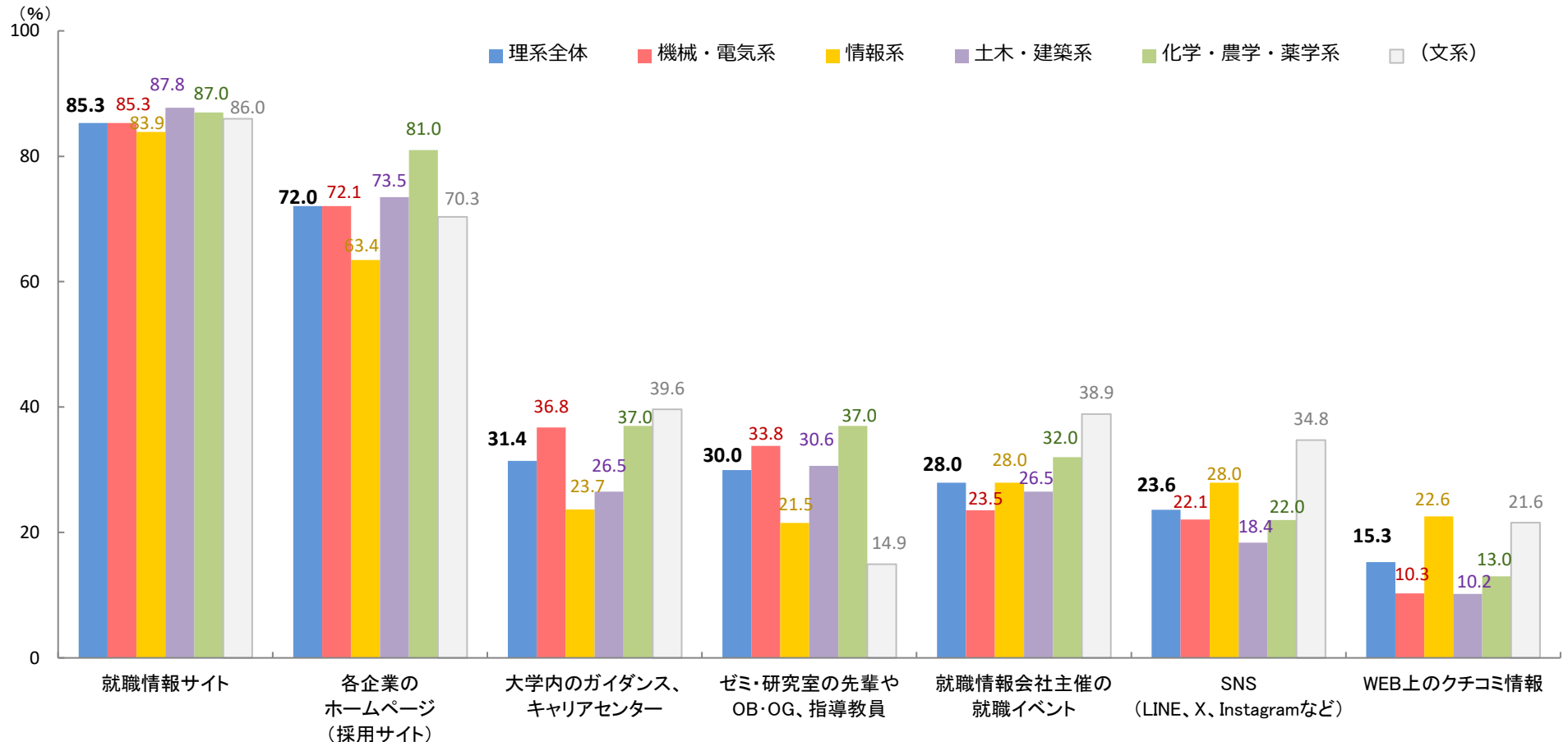
## 7. 第1志望業界になったきっかけ

- 「インターンシップ等のプログラムで興味を持った」がすべての属性で最多。機械・電気系は6割超（63.2%）。
- 機械・電気系は「業界研究」の結果、志望につながった割合も高い（42.1%）。
- 情報系学生は「大学入学前から志望」が他より高く、土木・建築系と化学・農学・薬学系は「専門的な勉強」からの志望が高い。



## 8. 就職活動に関する情報の入手先(1月時点)

- すべての属性で「就職情報サイト」が最も多く、文理や専攻分野によらず広く利用されている。
- 文理差が大きいのは「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」で、理系学生は文系の2倍に上る（理系30.0%、文系14.9%）。
- 情報系は「ゼミ・研究室」は2割にとどまり（21.5%）、「SNS」や「WEB上のクチコミ情報」が他の専攻より高め。



## 9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点(1月時点)

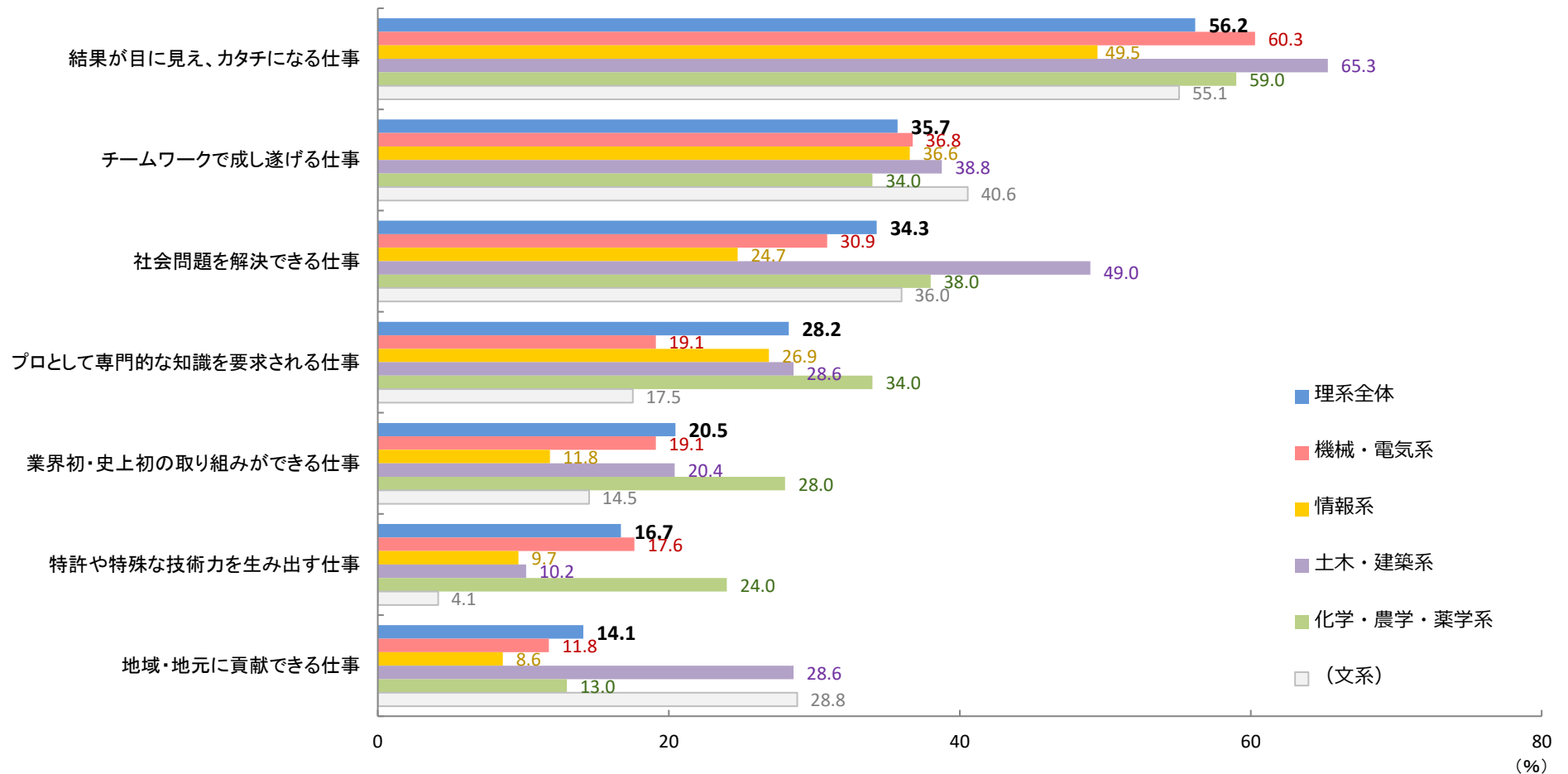
- いずれの属性も「給与・待遇が良い」が1位。文理や専攻分野に関わらず重要な視点となっている。
- 理系は文系に比べ「大企業である」ことを重視する傾向が強い（理系3位、文系7位）。
- 化学・農学・薬学系は「福利厚生が充実」のポイントが他の専攻分野に比べて高め（35.0%）。

※5つまで選択（%）

	理系全体					(文系)						
	機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系					
1	給与・待遇が良い	52.4	給与・待遇が良い	58.8	給与・待遇が良い	57.0	給与・待遇が良い	55.0	給与・待遇が良い	51.2		
2	将来性がある	44.4	将来性がある	54.4	大企業である	40.9	将来性がある	44.0	将来性がある	42.9		
3	大企業である	39.5	大企業である	47.1	将来性がある	39.8	社会貢献度が高い	38.8	大企業である	37.0		
4	福利厚生が充実している	28.5	業績・財務状況が良い	休日・休暇が多い	24.7	大企業である	34.7	福利厚生が充実している	35.0	福利厚生が充実している	31.1	
5	業績・財務状況が良い	26.8										希望の勤務地で働ける
6	希望の勤務地で働ける	26.2	休日・休暇が多い	27.9	有名企業である	業績・財務状況が良い	28.6	業績・財務状況が良い	28.0	職場の雰囲気が良い	26.7	
7	休日・休暇が多い	23.6	福利厚生が充実している	26.5	業績・財務状況が良い							21.5
8	有名企業である	23.3	社会貢献度が高い	22.1	希望の勤務地で働ける	有名企業である	22.0	職場の雰囲気が良い	22.0	希望の勤務地で働ける	24.4	
9	社会貢献度が高い	21.9	有名企業である	17.6	職場の雰囲気が良い							18.3
10	職場の雰囲気が良い	19.6	職場の雰囲気が良い	16.2	仕事内容が魅力的	17.2	休日・休暇が多い	18.4	休日・休暇が多い	21.0	有名企業である	21.1
			業界内の順位が高い									

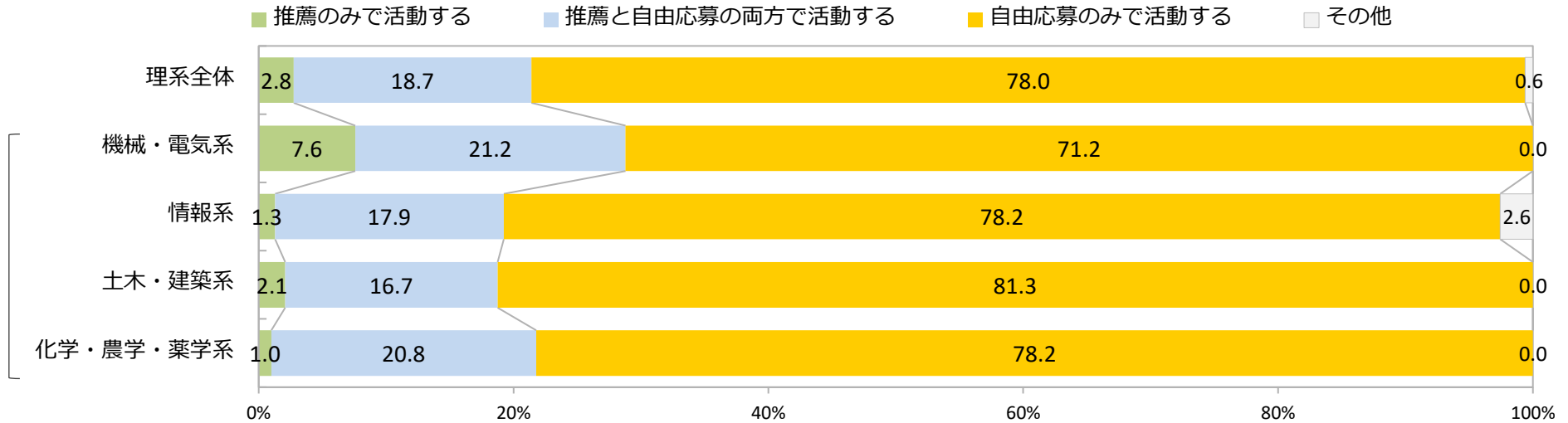
## 10. 「面白そう」と感じる仕事

- 理系全体で最も多いのは「結果が目に見え、カタチになる仕事」（56.2%）。特に土木・建築系、機械・電気系で高い（65.3%、60.3%）。
- 土木・建築系は、他に「社会問題を解決できる仕事」「地域・地元へ貢献できる仕事」が他の専攻より高いのが特徴的。
- 化学・農学・薬学系は「プロとして専門的な知識を要求される仕事」「業界初・史上初の取り組みができる仕事」が他の専攻より高い。



# 11. 推薦の利用予定

- 推薦の利用予定者は理系全体の約2割（自由応募との併願含め21.5%）。機械・電気系学生で比較的多く、3割近くに上る（同28.8%）。
- 自由応募で活動する理由は、「希望の企業からの推薦枠がない」が最多（33.0%）。特に化学・農学・薬学系が多い。
- 土木・建築系は「推薦で内定が出たら辞退できない」が他より多く（27.7%）、情報系は「できるだけ多くの企業を受けたい」が多い（17.3%）。



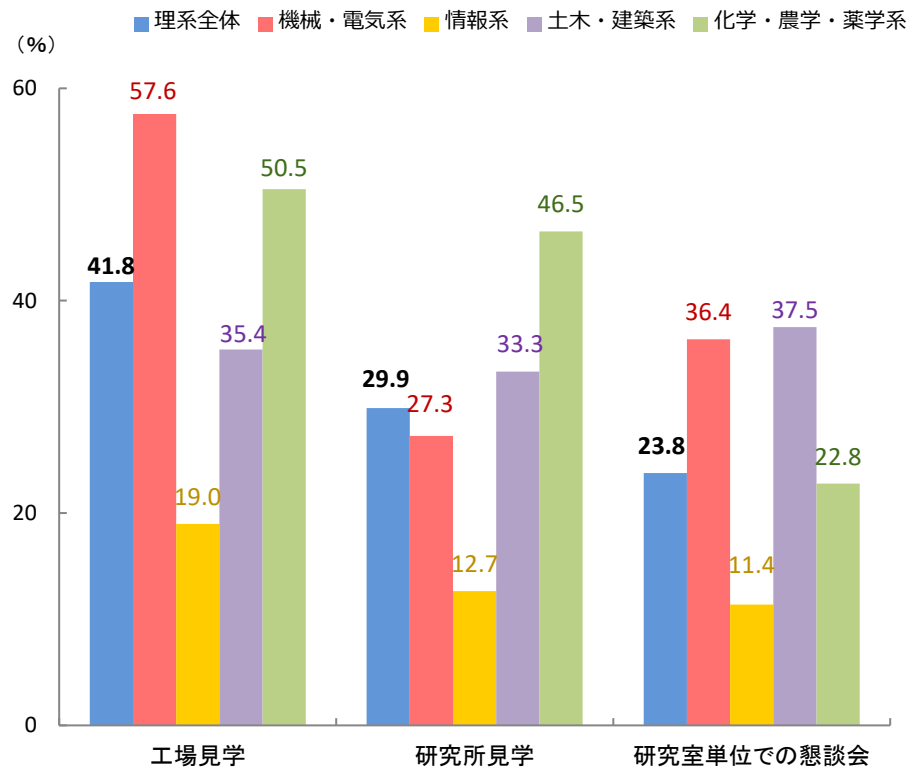
## 【自由応募で活動をする理由】

	理系全体 (%)				
	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系	
希望の企業からの推薦枠がないから	33.0	31.1	30.7	34.0	39.8
推薦で内定が出たら辞退できないから	17.6	18.0	17.3	27.7	12.2
自分で就職先を見つけたいから	16.3	16.4	12.0	10.6	15.3
できるだけ多くの企業を受けたいから	12.8	14.8	17.3	2.1	14.3
推薦で受けても内定が取れるとは限らないから	7.4	4.9	9.3	8.5	8.2
自由応募のほうが先に選考が始まるから	6.4	6.6	9.3	8.5	2.0
文系就職をしたいから	3.8	3.3	2.7	4.3	6.1
推薦枠はあるが学内の競争率が高いから	1.9	3.3	1.3	2.1	2.0
その他	0.6	1.6	0.0	2.1	0.0

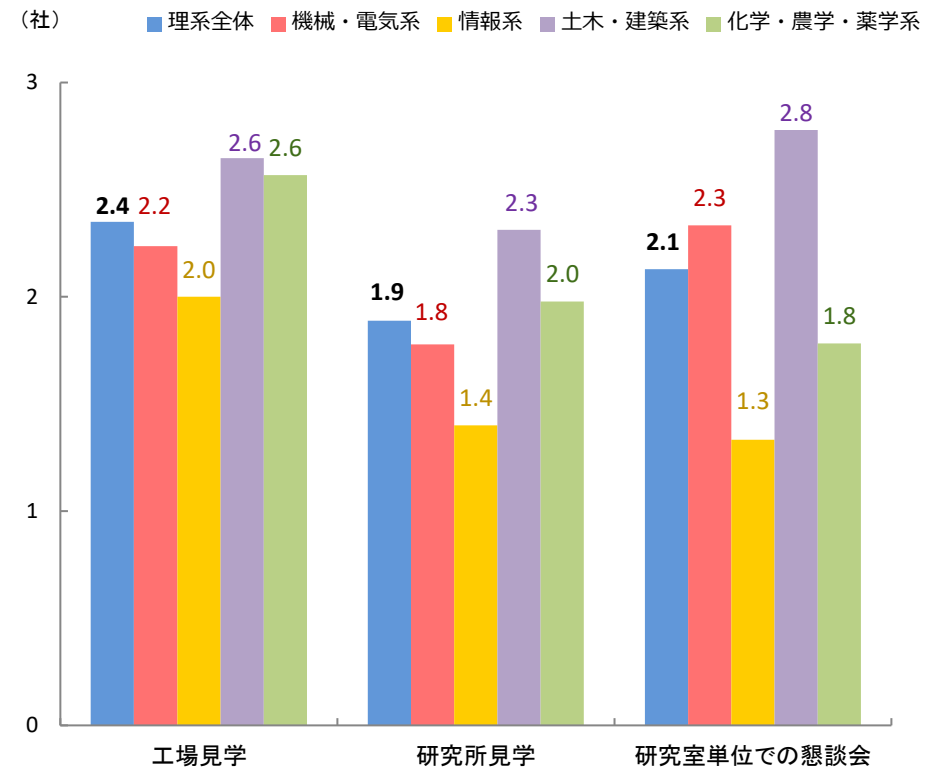
## 12. 工場見学・研究所見学等の状況(3月時点)

- 3月時点で、工場見学への参加経験は機械・電気系学生で多く、6割近くが参加（57.6%）。化学・農学・薬学系も過半数が参加（50.5%）。
- 研究所見学の経験は化学・農学・薬学系が多い（46.5%）。
- 情報系学生は、工場や研究所を持たないIT業界の志望者が大半であることから、経験・社数とも他の専攻分野に比べ少ない。

参加経験



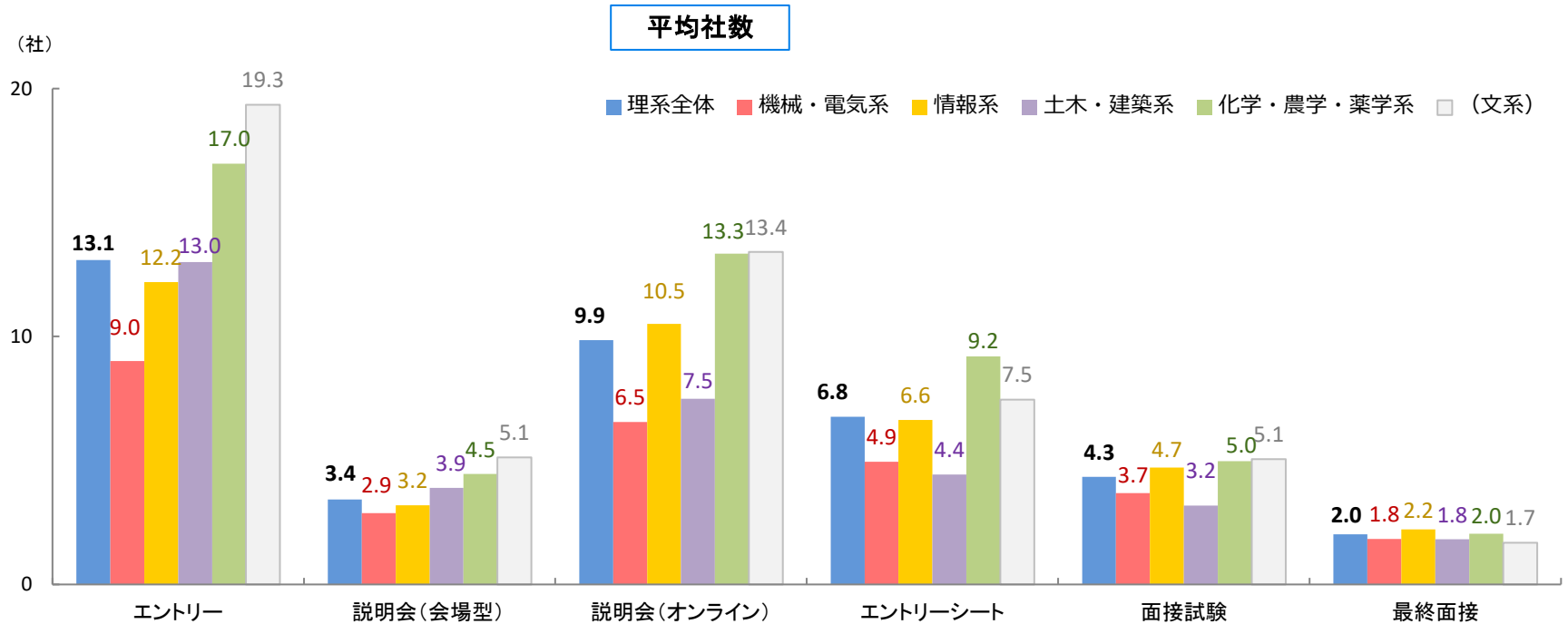
平均社数



※「研究室単位での懇談会」は、研究室の卒業生やリクルーター、人事担当者などを交えた懇談会について回答

# 13. 就職活動量(経験率と平均社数/3月時点)

- 3月1日時点の理系学生のエントリー社数は平均13.1社。文系(19.3社)より約6社少なく、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 理系の中でも、機械・電気系はエントリー社数が少なく(9.0社)、化学・農学・薬学系は比較的多い(17.0社)。
- 化学・農学・薬学系、土木・建築系で最終面接の経験率が高い(76.5%、76.0%)。



**【経験率】**

	エントリー	説明会(会場型)	説明会(オンライン)	エントリーシート	面接試験	最終面接
理系全体	92.4	52.3	86.8	87.9	83.0	72.7
機械・電気系	92.4	47.0	80.3	86.4	75.8	68.2
情報系	90.6	54.1	85.9	83.5	76.2	67.9
土木・建築系	98.0	60.0	90.0	89.8	88.0	76.0
化学・農学・薬学系	90.2	43.1	88.1	90.1	87.3	76.5
(文系)	90.9	63.0	92.6	84.5	80.0	58.0

## 14. 就職活動状況(3月時点)

- 3月1日時点で、理系学生の62.9%が内定を獲得。文系学生（47.4%）より15ポイント以上高く、進捗の早さが見て取れる。
- 理系は活動終了者の割合も高く、就職先未決定者（＝複数内定保留）も合わせると4人に1人が終了したと回答（計26.0%）。
- 内定率が最も高いのは情報系だが（68.2%）、就職先決定者の割合が高いのは土木・建築系（30.0%）。

